



発行 社団法人 日本品質管理学会
 東京都杉並区高円寺南1-2-1 (財)日本科学技術連盟東高円寺ビル内
 電話.03 (5378) 1506 FAX.03 (5378) 1507
 ホームページ:www.jsqc.org/

CONTENTS

- 1-トピックス 横断型基幹科学技術研究団体連合の取り組みと日本品質管理学会
- 2-私の提言 品質管理(QC)検定制度を活用し、日本の現場力向上を!
- 2-ルポルタージュ 第98回中部講演会ルポ
- 3-第307回関西事業所見学会ルポ/4月の入会者紹介/教員募集
- 4-行事案内/選挙告示

横断型基幹科学技術研究団体連合の取り組みと日本品質管理学会

理事・東京工業大学大学院 長田 洋

機能を重視した横型科学技術の研鑽を推進する横断型基幹科学技術研究団体連合が2003年に設立されてから、日本品質管理学会は積極的に参画してきた。顧客ニーズの多様化や環境・安全面での意識の高まりに対応し、さらなる活発な交流活動を期待したい。

日本の製造業の発展を支えてきた「モノづくり」は、現在、多様な顧客ニーズに対応する品質創造、循環型社会を形成する地球環境の保全、社会安全性の確保などさまざまな課題の解決が迫られている。このため、従来の電子技術、機械技術のように自然科学に基礎を置きたいわば縦型科学技術のみならず、品質管理、設計学、シミュレーション、ヒューマンインターフェース、感性工学など、機能を重視した横型科学技術の必要性が高まっている。

このような背景から横型科学技術を専門とする学会を東ね、協力して上述のような産業界、社会の課題を解決するために横断型基幹科学技術研究団体連合(略称:横幹連合)が2003年4月に設立された(会長:吉川弘之元東大総長)。いわば学会の連合(メタ学会)である。その後、横幹連合は2005年に特定非営利活動法人(NPO法人)に認証され、活動の幅を広げている。

横幹連合が推進する横型科学技術の特徴は縦型と異なり、単独の製品と直接リンクしていない点であり、「コト」を生み出す科学技術である。このコトづくりには品質事故防止、社会安全システムの確立に見られるように工学以外に社会学、経営学などの社会科学や心理学などの人文科学などからのアプローチも必要になっている。横幹連合は文系の学会も参加し、計43の学会(参加者延べ6万5千人)からなる文理融合型の連合体である。

わが品質管理学会も横幹連合の設立当初から積極的に参画・貢献し、現在は筆者が理事として参加している。筑波大学・椿教授らによる研究プロジェクト「シミュレーションとSQC」が本連合の協力を得て、品質管理学会所属の研究者以外に横幹連合の他学会の研究者も参加し、共創を推進して大きな成果を上げている。

また、横幹連合では2年に1回、参加学会の研究者が参加する横幹連合コンファレンスを開催していく予定である。第1回は昨年11月下旬に長野で盛大に開催され、2日間にわたる多くの研究発表と同時に「コトづくり長野宣言」を発表した。並行してコトづくり、横断型科学技術の重要性を総合科学技術会議に提案し、その内容は第3期科

学技術基本計画にも反映された。

横幹連合は学術団体が構成メンバーであるが、産業界との交流を活発にし横断型科学技術を産業活動に生かすために「横幹技術協議会」が2004年5月に設立された(会長:桑原洋日立マクセル会長)。

横幹連合は上記のコンファレンス以外にさまざまなシンポジウムやフォーラムを開催し、多くの参加者を得て、最先端の学術、産業上の成果の発表と活発な討論がなされている。最近では「安全安心システム実現への挑戦」をテーマにしたシンポジウムが好評であった。

また、このような事業に加え、地の活用ワークショップ、知の統合委員会など調査研究事業も行っており、横幹連合はまさに横断型科学技術の知的生産・普及の「場」を提供している。

経営に貢献する品質システム、顧客価値の創造、品質事故の防止技術、環境や安全を確保するための社会技術など20年前に比べ、品質管理の対象領域も広がっており、その研究や推進の方法にもイノベーションが求められている。このために、本学会は研究や行事開催などにおいて参加あるいは共催などにより横幹連合を積極的に活用し、発展を図ることを提案する。

● 私の提言 ●

品質管理(QC)検定制度を活用し、
日本の現場力向上を！

財団法人 日本規格協会 飯塚 敏之



『この度、品質管理学会は、(財)日本規格協会(以下、規格協会)との共同事業として、品質管理検定制度を開始することにしました。』

棟近 前庶務委員長は、2005年5月のJSQCニュースNo.260号トピックスで、本学会が認定したQC検定をこう紹介した。

日本のものづくり現場(産業界)は、近年、品質事故/品質トラブルの顕在化、現場力の低下等に悩まされ、人材育成/技術伝承の重要性等が従来になく強く再認識されている。

日本初のQC検定試験は、このよう

な時期に、JSQC認定/規格協会主催で第1回(2005年12月4日)が実施され、全国で約4,000名の方が受験し、たいへん大きな反響があった。この検定の特徴は、QCに関する知識レベルを“全国同一の基準”で客観的に評価できることで、人事計画/教育計画/採用等での活用が可能である。

第2回(2006年9月3日)からは、主催者に(財)日本科学技術連盟(以下、日科技連)が加わるようになった。「品質管理の総本山」といわれる日科技連が共同運営に参画していただいたことは、たいへん意義のあることで、関係者のご尽力に感謝申し上げます。さらに、多くの関係団体・企業等からも「協賛」をいただいております、幅広い支援の下で本制度が健全に普及していくベースが整いつつある。

現在、本学会では、桜井会長の下で「中期計画(Qの確保/Qの展開/Qの創造)」を策定中であるが、この中で「主催者との連携により、検定制度の定着化/受験者増」がうたわれており、今後、具体的な実行計画が検討される予定。一例えば検定1級合格者による研究活動の実施、1級の上を意識した活動などである。この制度はまだスタートしたばかりで、さらに普及/定着させていく上では周辺環境の整備が重要であり、合格者に対するインセンティブ、活躍/活動の場の設定等の取り組み、また、対象者をサービス業にも拡大するような試験のあり方の検討も必要である。

第2回は、さらに受験者増が見込まれるため開催地も増やされており、本学会会員を含む、ものづくりに携わる多くの方々が、この検定制度をうまく活用していただき、結果として、日本の現場力向上が図られることを期待している。

(出願期間：6/1(木)～7/7(金)、
URL：<http://www.jsa.or.jp>)

第98回中部
講演会
レポート「新しい品質管理の
考え方・進め方」

2006年4月27日(木)第98回(中部支部46回)講演会が愛知県刈谷市にあるD-Square B1階 スクエアプラザにて『新しい品質管理の考え方・進め方』を大会テーマとして開催された。136名が参加し、下記内容の講演が盛況に行なわれた。

■講演1「顧客価値創造と第3世代のQFD」

玉川大学 教授 大藤 正 氏

最近の世の中の話から日本における品質管理と品質機能展開との変遷を比較し、本物志向の時代に対応するために、また、顧客価値創造のために第3世代のQFDに対する考え方として、「設計活動としてのリアル化」等7つの実践活用への提案があった。

最後に、「木から落ちるりんごを見て万有引力の法

則に気づきますか」ということを話され、「気づき」がなければ新しい価値は創造出来ないなど痛感させられた。

■講演2「品質立国 日本の再生(Q-Japan)」

日本品質管理学会会長(株)リコー 社長 桜井 正光 氏

2次産業から3次産業へと日本の産業構造が変化する中で、国際競争力ランキングの低下、企業不祥事、安心・安全を脅かす重大事故の発生など日本の国際競争力が低下しているという現状から、“品質立国 日本”を再生する為に「品質の確保」「品質の展開」「品質の創造」について産・学・学会が共同でケーススタディし、その成果を産業界に広く活用促進していきたいと提案があった。

リコーでは「ファイヤー行動様式」といわれる「先ず撃ってみる」そして事実に基づき次ステップを決定していくという行動第一の姿勢が、社長自ら率先垂範されているところに感嘆した。

山下 恭幸(ヤマハ発動機株)

第307回関西 事業所見学会 ルポ

(株)福井村田製作所 村田製作所の技術戦略と 国内工場

2006年5月19日(金)に、第307回事業所見学会(関西支部)が福井県武生市の(株)福井村田製作所で開催された。終日かかる日程のため参加者は8名と少なかったが、村田製作所の最先端のテクノロジーとマネジメントについて、見聞を拡げることができた。

まず、事業所長の佐々木様より福井村田製作所の概要をご説明いただいた。村田製作所は生産子会社制をとっており、福井村田製作所はその100%出資の子会社、いわば村田製作所福井工場にあたる。海外を含む50社を超える関係会社の中で主軸をなす工場である。

続いて、品質管理部部長の江川様より主製品であるチップ積層コンデンサの工程やその特徴についてご説明いただいた後、実際に工程を見せていただいた。製品の小型化(現在の最小サイズは0.4mm×0.2mm)を支える技術(たとえば、誘導体シートにミクロン単位

で電極を印刷、それを何枚も正確に積み重ねる技術など)の精確さは、まさに驚異のレベルであった。

見学後、品質管理部部長の齋谷様より、部品メーカーとしての強みを作り上げるための工夫、モノづくりへのこだわりをお聞きした。原材料から製品までの一貫生産、また国内設計になぜこだわり続けるのか。本社、事業所、関係会社といった異なる組織の力を生かすための3次元マトリックス体制のもとで、研究開発を重視し、蓄積した要素技術を垂直統合し、さらに技術者の横のつながりを強めるために戦略的技術プログラムSTEPが配置されている。品質の作り込みのため、生産時点情報を活用したリアルタイムアクションシステム(PRASS)、より時間を必要とする品質管理業務へはQMISといったシステムが活用されている。これらの意欲的な取り組みについてのご説明の後、参加者からの活発な質疑にお答えいただいた。

村田製作所の高度な技術と、それを生かしていく組織作り、それを支えるモノづくりへの情熱を強く感じた見学会だった。

橋本 紀子(関西大学)

2006年4月の 入会者紹介

2006年4月7日の資格審査において、下記の通り正会員28名、準会員12名の入会が承認されました。

(正会員28名)

○山口 勝則(シスウエイ) ○西崎

和子(ソニーEMCS) ○衣川 いずみ
○水沢 正水(富士通インターコネク
トテクノロジー) ○池田 暁(日立
ハイブリッドネットワーク) ○関口
喬 ○五味 由紀子(協伸) ○土屋 仁
(虎の門病院) ○進藤 幸雄(大久野病
院) ○荻久保 瑞穂(東京工業大学)
○田中 征夫(朝日大学) ○竹内 研
一 ○畑 寛和(パイオニア・ディスブ

レイ・プロダクツ) ○殿村 順一(マ
ネジメントシステム評価センター) ○
西澤 隆行(システム環境研究所) ○
菊地 弘樹(前橋赤十字病院) ○酒井
洋昌(ビスタピー・エス) ○中塚 憲
秋(東洋ゴム工業) ○山形 史郎(日
本レコードマネジメント) ○宮崎 有
子(西諫早病院) ○廖 涵眉(成城大
学) ○草間 昇(日本インター) ○北
川 隆(シスメックス) ○鮎澤 隆
(国際規格研究所) ○坪内 哲夫(イ
ートン機器) ○細島 章(山武) ○荒
雅彦 ○三橋 利玄(みずほ情報総研)

(準会員12名)

○丸山 由佳・金子 裕一・木野 好
貴・相模 英太郎・大浴 寛之(長岡
技術科学大学) ○原田 大介・小林
綾香・福島 瑠依子・岩井 秀明・河
野 佳・子安 沙央里(早稲田大学)
○PISVIMOL CHATSIRIRUNGRUANG
(東京工業大学)

教員公募

山梨大学 教員募集のお知らせ

募集人員：大学院医学工学総合研究部コンピュータ・メディア工学専攻
コンピュータサイエンスコース 助手2名(各分野1名)

専門分野：(1)教育についてはコンピュータ科学の基礎的科目(プログラミング、アルゴリズムとデータ構造)と、オペレーティングシステム演習、ハードウェア設計演習のいずれかの科目を担当できることが望ましい。

研究については組み込みシステムに関係する分野に携わる方。

(2)教育についてはコンピュータ科学の基礎的科目(プログラミング、アルゴリズムとデータ構造)とソフトウェア工学演習が担当できることが望ましい。

研究についてはソフトウェア設計に関係する分野に携わる方。

応募資格：コースの教育理念に賛同し、博士号取得または取得見込みの方。また、32歳未満の方が望ましい。

着任時期：2006年10月1日以降できるだけ早い時期

提出書類：ホームページをご覧ください。

<http://www.cs.yamanashi.ac.jp/news/2006-05-15.html>

応募締切：2006年6月30日

問合せ先：医学工学総合研究部コンピュータ・メディア工学専攻 宗久知男

Tel. 055-220-8584 e-mail: munehisa@yamanashi.ac.jp

正会員3008名

準会員96名

賛助会員170社197口

公共会員22口

行事案内

●第313回事業所見学会 (本部)

テーマ：信頼性の高い快適な車両と輸送サービスを目指して！

日時：2006年6月26日(月)13:30～16:00

見学先：JR東日本(株)

大宮総合車両センター

定員：30名(会員優先)

参加費：会員2,500円 非会員3,500円

準会員1,500円 一般学生2,000円

申込締切：6月23日(金)到着分まで

申込方法：本部事務局宛E-mailまたはFAXにてお申し込みください。

●第108回(中部支部第25回)シンポジウム

テーマ：「顧客価値創造」—日本のものづくりにおける競争優位の確保—

日時：2006年7月11日(火)10:50～17:00

会場：中電ホール

プログラム：

基調講演：小川徳男氏(トヨタ輸送(株))

講演 1：長田 洋氏(東京工業大学)

講演 2：小川良彦氏(松下ホーム
アプライアンス社)

講演 3：阿部眞一氏(トヨタ自動車(株))

パネルディスカッション

定員：200名(会員優先)

参加費：会員5,000円 非会員7,500円

準会員2,500円 一般学生3,500円

申込締切：2006年7月3日(月)到着分まで

申込方法：中部支部事務局までお申し込みください。

●ISO9000s審査員のためのTQM基礎講座 (本部)

一月1回一日2回、計6回開催・会員優先

時間：毎回 9:30～12:30/13:30～16:30

各々講義1時間30分、演習1時間、質疑

※CPDの証明時間は各回3時間です。

会場：日本科学技術連盟

東高円寺ビル2階講堂

プログラム：昨年と同様です。

第1回 7月22日(土) 午前

お知らせ

役員・代議員選挙告示

(社)日本品質管理学会第36年度～第37年度(2006～2008年)の役員ならびに代議員の選挙を次の日程で行います。

投票用紙発送：7月24日(月)～27日(木)

投票締切日：8月31日(木)

当日消印有効

開票日：9月13日(水)

TQMのフレームワークと基本原則

第2回 7月22日(土) 午後

TQMの活動要素(1) 一方針管理と改善活動

第3回 8月26日(土) 午前

TQMの活動要素(2) 一品質保証と新製品開発

第4回 8月26日(土) 午後

TQMの活動要素(3) 一日常管理と標準化

第5回 9月16日(土) 午前

TQMのための手法—SQCとその活用

第6回 9月16日(土) 午後

標準化をめぐる動向

定員：毎回先着100名

参加費：会員4,000円(各回)

(6回一括申込：20,000円)

非会員8,000円(各回)

申込締切：2006年7月14日(金)

(各回とも締切は開催の1週間前)

申込方法：

ホームページからお申し込みできます。

<http://www.jsqc.org/ja/oshirase/gyouji>

●第50回クオリティバブ(本部)

テーマ：リコーにおけるCS経営

ゲスト：桜井 正光氏(日本品質管理学会会長・リコー(株)代表取締役)

日時：2006年7月31日(月)18:00～20:30

会場：日本科学技術連盟

東高円寺ビル5階研修室

定員：30名

参加費：会員3,000円 非会員4,000円

準会員・一般学生2,000円

(含軽食・当日払い)

詳細：ホームページをご覧ください。

申込方法：本部事務局宛E-mailまたはFAX

にてお申し込みください。

●第110回シンポジウム(本部)

テーマ：今、旬のマネジメントシステム：

ISO9000の動向と情報セキュリティ

日時：2006年8月3日(木)10:00～17:00

会場：日本科学技術連盟 千駄ヶ谷本部

1号館3階講堂

定員：150名

参加費：会員5,000円(締切後5,500円)

非会員7,000円(締切後7,500円)

準会員2,500円 一般学生3,500円

申込締切：2006年7月27日(木)

プログラム：同封の参加申込書をご覧ください。

申込方法：

参加申込書にご記入の上、本部事務局

までお申し込みください。ホームページから

もお申し込みできます。

<http://www.jsqc.org/ja/oshirase/gyouji>

●第82回研究発表会(中部)

日時：2006年8月30日(水)10:40～16:40

会場：名古屋工業大学

参加申込締切：8月23日(水)

参加申込方法：

中部支部事務局までお申し込みください。

●第81回研究発表会(関西)

日時：2006年9月15日(金)13:00～17:00

会場：大阪・天満研修センター

申込締切：

発表申込締切：6月28日(水)

200字程度の発表要旨を添えて

お申し込みください。

発表原稿締切：8月28日(月)

参加申込書は7月に送付の予定です。

申込方法：関西支部事務局までE-mailまたはFAXにてお申し込みください。

●第36回年次大会・筑波大学(本部)

発表募集

日時：2006年10月28日(土)

(1) 申込期限

発表申込締切：8月31日(木)

予稿原稿締切：9月29日(金) 必着

参加申込締切：10月18日(水)

(2) 研究発表・事例発表の申込方法

同封の発表申込要領をご覧ください。

(3) 参加申込

8月送付の参加申込書にご記入の上、

本部事務局までお申し込み

ください。

行事申込先

JSQCホームページ：www.jsqc.org/

本部：TEL 03-5378-1506

FAX 03-5378-1507

E-mail: apply@jsqc.org

事務局携帯:090-9128-7979

中部支部：TEL 052-221-8318

FAX052-203-4806

E-mail: nagoya51@jsa.or.jp

関西支部：TEL 06-6341-4627

FAX 06-6341-4615

E-mail: kansai@jsqc.org

■訂正

ニュース268号(5月発行)でご案内した「第309回事業所見学会(株)ブリヂストン彦根工場・関西支部開催」は、2006年6月22日(木)に開催日の変更されました。詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.jsqc.org/ja/oshirase/gyouji.html#060529-1>